



会長 佐藤 友彦 幹事 櫻井 武志

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会

TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716 例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

佐藤 友彦

皆さん、こんにちは。本日は師走のお忙しい中、本年最後の例会に多くの皆様にご出席を賜り御礼申し上げます。

2023-2024 年度という事で半年間、皆様のご協力のおかげをもちまして

会長職を務める事が出来ました事にも重ねて感謝し御礼を申し上げる次第でございます。私事で恐縮ですが一昨年(2022)の12月に病を患い一昨年、昨年と年末年始は体調が悪く思うように外出も出来ず自宅にて療養している中、楽しみだったのが箱根駅伝であります。学生一人一人がこれまで自身が感じ得た様々な想いや支えてくれた家族をはじめ大切な人のこころ、そして残念ながら走る事の出来ないチームメイトをはじめとする仲間たちの気持ちを背負い、長きに渡って汗や涙の詰まった母校の伝統を糧として懸命に繋いでゆく姿に自分も前を向いて、決して諦めずに頑張ろうと励まされ、勇気を貰いました。その結果、本日この場に元気で立てているのかなと思っています。

ここで少し駅伝のルーツをお話致します。明治45年ストックホルム五輪にて陸上長距離競技(マラソン)に金栗四三さんという方が日本人として初めて出場します。結果は、残念ながら途中棄権となります。自身の結果から世界とのレベルの差を実感し世界で通用する日本人選手を育成しなければとの気運が高まり、大正6年に日本初の駅伝大会である東京奠都五年奉祝東海道の徒歩競争が東京上野(不忍池)から京都(三條大橋)までの全長516kmを昼夜3日かけて開催されました。今年の箱根駅伝は第100回の記念大会という事で例年より3校多い、23校が出場します。これまで幾多のドラマがあった中で今回はどのような大会となるか非常に楽しみであります。箱根駅伝に例えれば会長職をさせて頂いてから丁度折り返しの往路が終わる所です。残りの6か月も着実に走り次年度にしっかりと襷を渡したいと思っております。皆様には引き続き、ご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げますと共にたまにお

褒めの言葉等頂けたら更に力が出てオーバーペースで走れると思いますのでよろしくお願い致します。最後になりますが新しい年が皆様にとりまして良い年になります事をご祈念致しまして本年、最後のご挨拶に代えさせていただきます。

1月12日、皆様にお会いできることを楽しみにしております。ありがとうございました。

幹事報告 なし

連絡事項

1.次週は規定により休会です。1月の例会は、5日特別休会、12日新年懇親会、19日通常例会、24日IM・合同例会、26日休会となります。皆様良いお年をお過ごしください。

スマイルボックス

結婚記念日 宮川勝行君(12/22)

高瀬美穂君(小田原城北ロータリークラブ)

本日は年内最後の例会、お忙しい中、温かく迎え入れていただきありがとうございます。限られた時間ですが楽しませていただきます。宜しくお願いいたします。

深澤昌光君

土肥会で毎年実施している宿泊研修で横須賀・千葉方面で土肥實平が千葉の豪族上総の介千葉氏の協力を得て、鎌倉に入り鎌倉幕府が樹立することができましたことについて湯河原新聞に掲載することができました。

青木義美君

今年も家庭内騒動になりそうなラブラブ年賀状作っちゃいました。迷惑になりそうでしたら元旦に届きますので早めに処分してください。

常盤孝司君

昨日、吉村会員と新年会の御用足しに小田原に行って来ました。1.1%予算オーバーでしたが楽しく買い物させていただきました。

クリスマスケーキが配られたので全員でスマイル。

出席報告

ゲスト 0名 ビジター 1名
会員 22名 欠席1名(免除者0名)
出席率 95.45%
前回の修正出席率 77.27%
前々回の修正出席率 95.45%
事前メイクアップ 0名

ビジター 高瀬美穂様(小田原城北ロータリークラブ)

卓話

西山 敦 君

皆様こんにちは。今年の卓話では、伊勢神宮式年遷宮についてお話いたします。

式年遷宮の「式年」とは定められた年を、「遷宮」とは宮を遷す(うつす)事を意味します。式年遷宮は20年に一度、正殿をはじめとする殿舎と御装束、神宝を新たに造り替え、大御神に新宮にお遷りいただくお祭りで、9年の歳月をかけて33のお祭り行事を重ねて行います。この制度は約1300年前、天武天皇のご発意により始まり、持統天皇4年(690年)に第1回が行われ、その後戦国時代の120年以上におよぶ中断や幾度かの延期などがあったものの、2013年の第62回までおよそ1300年にわたって行われてきました。

第62回式年遷宮は2005年から各行事が進行し、2009年には主要な行事である内宮に関わる「宇治渡始式」が、2013年には正遷宮(神体の渡御)が斎行されました。神宮司庁によると、2013年までの各行事を含む第62回式年遷宮全体の費用は「建築、衣服、宝物の製作を含め約550億円」で、このうち330億円が伊勢神宮の自己資金、220億円が寄付でまかなわれたということでした。今回は式年遷宮33のお祭りの中の8つについての概略をお話いたします。

式年遷宮・祭典と行事

「山口祭(やまぐちさい)」

遷宮の最初の行事として、用材を切り出す御杣山(ごそまやま・みそまやま)の山口にある神を祭る儀式です。現在、用材は木曾山中から切り出していますが、この儀式は古来のまま、内宮は神路山(かみじやま)、外宮は高倉山(たかくらやま)と、いずれも境内背後の山で行われます。

「木本祭(このもとさい)」

御正殿の御床下に奉建する心の御柱を伐採するにあたり、その木の本に坐す神をまつります。深夜に行われ、その様子は非公開です。

「御杣始祭(みそまはじめさい)」

古くからの作法である三ツ尾伐り(みつおぎり)によって御樋代(みひしろ:御神体を納める容器)にする木を切り出す行事です。式典は内宮・外宮の順で行われ、内宮用・外宮用各1本の2本を交差するように倒すのが習わしです。山元からの輸送は木曾森林鉄道を用いるのが伝統で、現在もごく短距離ながら急用林の保存線を使用しています。

「木造始祭(こづくりはじめさい)」

造営工事の開始にあたって、作業安全を祈る儀式です。御木曳初式で運び入れられた役木の前に神饌を備え、家屋の守護神である屋船大神に祝詞を奏上します。式では小口を切り、墨を引き、忌斧を打ち入れる所作を行います。

「手斧始(ちょうなはじめ)」 事始(ことはじめ) 神事とも

内宮では祭儀の前に、外宮では祭儀の後に、神宮司庁が造営作業に携わる「神宮式年遷宮造営庁」の関係者を、膳と神酒でもてなす饗膳の儀(きょうぜんのみ)が行われます。

「宇治橋渡始式(うじばしわたりはじめしき)」

安全祈願として橋を守護する饗土橋姫神社(あえどはしひめじんじゃ)で祈願した後、萬度麻(まんどどぬさ)を擬宝珠に納めます。神領地から選ばれた「渡女(わたりめ)」を先頭に、夫、子夫婦、孫夫婦が渡り初めを行い、全国から選ばれた三世代揃った夫婦が続きます。

「御木曳行事(おひきぎょうじ)」

神領民と全国の崇敬者により、御用材を古式のままに両宮域内へ曳き入れる盛大な行事です。内宮は五十鈴川を川曳し、外宮は御木曳車で陸曳します。遷宮諸祭・行事の中でもっともにぎやかな行事です。

「御白石持行事(おしろいしもちぎょうじ)」

新しい御正殿の敷地に敷き詰める「お白石」を奉獻する民俗行事です。宮川より拾い集めた「お白石」を奉曳車・木櫓(きそり)に載せ、沿道や川を練り進みます。神域に入ってから一人一人が白布に「お白石」を堤、遷宮後は立ち入ることの出来ない新宮の御垣内、真新しい御正殿の近くまで進み、持参示唆「お白石」を奉獻する行事です。御木曳行事と共に、私達が参加できる数少ない行事です。

次回の式年遷宮は2033年です。